

# 平成30年度 運営に関する計画・自己評価

## 総括シート

|      |           |            |       |
|------|-----------|------------|-------|
| (1)  | 校長・教頭・事務長 | (校務運営委員会)  | p. 1  |
| (2)  | 教務部       | .....      | p. 3  |
| (3)  | 総務部       | .....      | p. 4  |
| (4)  | 生徒指導部     | .....      | p. 5  |
| (5)  | 進路指導部     | .....      | p. 6  |
| (6)  | 健康教育部     | .....      | p. 7  |
| (7)  | 人権教育推進委員会 | .....      | p. 8  |
| (8)  | 英語科       | .....      | p. 9  |
| (9)  | 流通経済科     | .....      | p. 10 |
| (10) | 情報科学科     | .....      | p. 11 |
| (11) | 国語科       | .....      | p. 12 |
| (12) | 地歴公民科     | .....      | p. 12 |
| (13) | 数学科       | .....      | p. 13 |
| (14) | 理科        | .....      | p. 13 |
| (15) | 保健体育科     | .....      | p. 14 |
| (16) | 家庭科       | .....      | p. 14 |
| (17) | 芸術科       | (書道・美術・音楽) | p. 15 |
| (18) | 1学年担任団    | .....      | p. 16 |
| (19) | 2学年担任団    | .....      | p. 17 |
| (20) | 3学年担任団    | .....      | p. 18 |

大阪市立西高等学校

平成30年4月

(1) [校長・教頭・事務長]

1 学校運営の中期目標

現状と課題

西高校は入学者選抜の志願者数からも圧倒的な支持を受け続けていることがわかる。西高校の教育実践が高く評価されている結果と考える。

また卒業生の進路状況も、就職内定率は100%を継続し、大学等への進学についてもきめ細かい指導により国公立合格者は昨年の3倍になり、国公立・関関同立・産近甲龍への合格者総数は、H28年度の33名に対し、H29年度は40名となっている。

もちろん、入学と卒業にみられる高い実績評価は、高校3年間の生徒の充実した学校生活がもたらした結果である。特に、専門学科のみで構成される西高校では、生徒にコアコンピタンスを獲得させ、好ましいアイデンティティを確立させるために、全教職員が使命感を持って取り組んでいる。

このように、本市高等学校の中では、今、最も勢いがあると自負する西高校であるが、一方で、普通科系高等学校の再編統合校に含められており、今後は新校に繋がることも含めて、西高校の素晴らしい教育実践をさらに発展させなければならない。そのためには、高大連携のさらなる強化と基礎学力の定着、同時に英語科・流通経済科・情報科学科の専門力の育成がポイントである。同時に、真面目で素敵な在籍生の3年間を、私たちは大切に考え、責任を持って対処していきたいと決意している。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

西高校では、いじめ・体罰に関連する問題事象は昨年度も確認されていない。これは、生徒たちの穏やかで真面目な気質と教員のきめ細かい指導の賜物である。一方で、SNSの悪用など、現代社会が持つ様々な危険から自らを守り、加害者にもならないように、人間としての正しい価値観やモラルを身に付けさせなければならない。そのために、授業はもとより学校行事、HR活動、保健指導、部活動指導等のすべての教育活動で対話を重視した実践をさらに強化する必要がある。

また、再編統合へと向かう状況の中で、生徒たちがやる気をなくしたり、寂しい思いを抱かせないために、学校全体として退潮ムードが蔓延しないよう全力を挙げて取り組む必要がある。

いずれにしても、これまで西高校が行ってきた人間力の育成を継承・発展させ、生徒と一体感のある教育を展開することが重要である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

再編統合のプラン構築段階を迎え、新しい高校での教育目標や学科構成、カリキュラムデザイン、各種規定等、検討課題が多い。そんな中、英語科・流通経済科・情報科学科という専門学科で構成される西高校では、新しい高校に継承すべき専門教育を見極め、更なる発展・充実を目標としなければならない。また、教育大学も含めた大学進学が重視される新校においては、基礎学力の定着が重要である。よって、中期目標として専門教育の充実と基礎学力指導の充実を最重要課題とする。西高校は今後4年間でその存在感を示すとともに、より発展した教育の形を新校で作り上げる役割を担っていきたい。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

生徒指導のあらゆる場面において対話による指導を実施し、いじめの発生を防ぐとともに生徒の問題行動が増加しないようにきめ細かい指導を徹底する。本年度は具体的に次のような目標を設定する。

- ①生徒と教員の対話によりお互いの意思の疎通をさらに深めるとともに、事件を起こさないように事前指導の充実に努め、問題行動による特別指導の件数を増やさない。
- ②折に触れ、基本的な生活習慣指導を行い、皆勤・精勤の生徒を減らさない。
- ③日々の学校生活はもとより、学校行事や団活動、HR活動、部活動の充実を図り、生徒の学校に対する満足度をさらに高める。
- ④すべての教員がカウンセリングマインドを持ち、人権教育はもちろんキャリア教育、健康教育等を充実させ、不登校生徒や中途退学者を増やさない。
- ⑤すべての校務分掌で、道徳心・社会性の育成に努め、学校協議会等からの高い評価をめざす。
- ⑥再編統合から派生する風評被害等に屈することなく、生徒募集や学校PRに努め、地域はもとより多くの市民から支持される学校をめざす。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

英語科・流通経済科・情報科学科の専門教育を充実させ、本市が積極的に取り組んでいる英語教育とICT教育の充実に貢献する。また、再編統合に当たって、確かな専門力を育成するために必要なシステムや教育内容について研究・検討を重ね、西高校としての高い教育力を示す。並行して基礎学力の定着についても取り組むが、専門教育の充実を第一目標として設定する。具体的には以下の通りである。

- ①英語科生徒はもちろん、他科の生徒に対してもC-NETとの連携強化やICT機器の積極的導入によりコミュニケーション指導を充実させる。そのための施設・設備の充実と教材開発を行う。
- ②英語教員の研修を充実させ、本市の英語教員のリーダーとなれるような人材育成に努める。
- ③情報教育の専門知識が豊富な指導者の発掘に努める。
- ④大学教育との連携をさらに強化するため、現在実施している様々な事業を継続・発展させるとともに、新たな企画を立案し実践する。
- ⑤進学希望者への指導をさらに充実させ、大学への合格実績を伸ばす。

## 3.本年度の自己評価結果の総括

(2) [教務部(データシステム管理部)]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

平成34年度の新校統合、また新学習指導要領実施に向けて魅力ある高校であるべく、カリキュラムの検討の必要がある。さらに校内における多岐にわたる事務作業の増加に対応するべく、パソコンなどの利用をより効率的に行う必要に迫られている。

校内で使用している電子データは、同一データの繰り返し入力や、データ更新が統一されないなどの問題点を含んでいる。このようなデータ構造を見直し体系化することにより、データの一元化・作業の効率化を進め、データ管理体系を構築していく。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

組織的な学校運営を行い、今まで以上に生徒の実情に応じた教育課程を検討し、社会の変化に対応できる人間を育成する教育活動を推進する。

データシステム部統合により、入試処理・成績処理・調査書作成の各システムを改良するとともに、システム間でもデータの共用化など連動部分を強化する。また選択科目システム・時間割作成システム・名列表作成システムのデータ共通化と操作性の向上をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 授業時間数の確保を考え、年間行事を計画する。
- ② 生徒の実情に合わせた選択科目について検討する。
- ③ 教育課程の編成を検討する。
- ④ 追認対象者を減らすとともに、その指導を徹底する。
- ⑤ 入試・選択科目・時間割作成・名列表作成システムのデータ一元化と修正をする。
- ⑥ 成績処理・調査書作成システムの改良をする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(3) [総務部(図書視聴覚部)]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 平成34年度の新校統合に向けて魅力ある高校であるべく、中学校・地域への広報活動の検討の必要がある。
- ここ数年各学科とも入試において定員割れは生じておらず、むしろ高倍率であり、中学校から評価も得ているが、体験入学、学校説明会、中学校訪問等を通して本校のおかれている現状について理解してもらったうえで、一層積極的にPR活動を推進する。
- 大阪市・大阪府の国際化戦力プログラムへの参加や姉妹校との国際交流事業を通してグローバルな視点から生徒の道徳心・社会性が育っている。
- 授業参観などの行事やPTA活動を充実させることによって家庭との相互理解を深め、西区の行事への積極的な参加を通して地域連携をさらに深める。
- 図書室への来室者数は増えてきてはいるが、今後の課題として図書室の利用を促すための動機付けをより一層工夫していくことが必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 国際交流事業が全体的・日常的な取組みになるよう基本的理念の周知を図る。
- 国際交流事業としての研修旅行のさらなる充実に向けて、実施計画を練り上げていく。
- 中学校訪問について、過去のデータを整理し中学校に持参するデータの内容を充実する。
- PTA活動と学校の教育活動が機能的に連携するように努める。
- 体験入学について、本校志望のきっかけとなるように案内等により各学校へ周知徹底する。
- 学校案内・体験入学チラシ・学校紹介ポスターの内容充実を図る。
- 感受性を育成するとともに、読書習慣の定着をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 本年度の国際交流事業を来年度につながる形で遂行する。
- ② 国際交流事業として姉妹校2校との交換留学・相互訪問・受け入れの計画・準備をする。
- ③ 中学校訪問について、過去のデータを吟味し、適切な時期など訪問計画を策定する。
- ④ 教育活動への保護者の理解を深めるため、学年懇談会や授業参観を実施する。
- ⑤ 新入生対象のアンケートを実施し、その結果を踏まえて広報活動・体験入学などの内容を精査し、内容の充実を努める。
- ⑥ 学校案内・体験入学チラシ・学校紹介ポスター等を必要に応じて改定し、効率よく活用する。
- ⑦ 生徒の感受性育成の一助として、全学年を対象とした視聴覚行事を実施する。
- ⑧ 図書室の環境整備に取り組む。
- ⑨ 大阪市立中央図書館と連携して、生徒の読書習慣の育成を推進する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(4) [生徒指導部]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校は現在、落ち着いた環境で教育活動が行われているが、この教育環境を維持し発展させるため、生徒の基本的生活習慣の向上と人権尊重の精神の育成を図る必要がある。
- 生徒会を中心とした学校行事、団活動やクラブ活動への関心をより一層高め、自立・共生の精神を育て、生徒個々の自己実現につながるよう指導する必要がある。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 基本的生活習慣の確立と人権を尊重する精神を育成し、いじめの根絶と安全で安心な学校をめざす。懲戒件数年間0を目標にする。
- 生徒会を中心に、全校生徒が学校行事やクラブ活動に積極的に参加できる環境を整え、生徒個々の自己実現の支援を行う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 遅刻0の日の増加をめざすとともに、服装、頭髪、言動の乱れをなくす。また、挨拶が1日の始まりとなるよう挨拶の励行を行う。
- ② 全体集会や講演会で人権を尊重する大切さを訴え、他者を思いやる心、共に生きる共生の心の育成を図るとともに 警察と連携し交通規則の順守、いじめや差別を許さない意識向上をめざす。
- ③ 生徒指導部と全校生徒とのコミュニケーションをできるだけ密にとるように努め、事件が起こってからでの指導ではなく、事件を起こさないように事前の指導に力を注ぐ。問題行動の実態把握と未然防止に取り組む。また、SNSの危険性を伝え、利用にあたってのモラルの向上をめざす。
- ④ 1年生の部活動加入率7割以上をめざす。また団活動、部活動を通じ学年を超えた協力関係を築き、リーダーシップや自主性、連帯感、共生の精神を養う。
- ⑤ 生徒会執行部と各クラスの連携を深め、学校行事の運営に関わっているという自覚や責任感・充実感を持たせる。裏方で行事を支えてくれている人がいることを理解し、感謝の気持ちを持てる生徒を育てる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

|  |
|--|
|  |
|--|

(5) [進路指導部]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生徒の進路目標をより高め、一人ひとりに応じた指導を充実させ、進路を主体的に考えることができる指導をめざす必要がある。

就職について、求人数は増加傾向にあるが希望の多い事務職が不足しているので、今後、会社訪問・企業交流会等への積極的な取り組みが必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 生徒の進路実現をサポートし、進学実績を向上させる。
- 高大連携事業を積極的に活用する。
- 職業観の育成をはかり生徒の自己実現の可能性を広げる。
- 将来の進路に向けて、目的・目標や職業意識等、個々のキャリアを考えさせる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 一人ひとりの目標実現に向けて、きめ細かな進路指導・面談・長期休業中の補習等を実施し学力を向上させる。
- ② 高大連携によって、生徒の学習意欲や目的意識を高め、適切な進路選択を支援する。
- ③ 進路説明会を実施し、目的・目標や職業意識等を育成する。
- ④ 就職内定率 100%をめざし、公共職業安定所（ハローワーク）との連携を密にしながら就職実績を向上させる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

|  |
|--|
|  |
|--|

(6) [健康教育部]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生徒達を取り巻く社会環境や生活様式が大きく変化し、生活習慣の乱れやいじめ、不登校、薬物乱用等、現代的な課題に対するさらなる予防、啓発が必要である。生涯を通じて健康な生活を送ることができるように、知識を身につけさせ、細かで具体的な計画が必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 命を尊び、生きる力を育む。
- 美化・環境整備に関心を向けさせ進んで取り組ませる。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 健康に関する正しい知識を習得させる。
- 自主的な健康管理の徹底に勤め、疾病やケガの予防ができるよう指導する。
- 基本的な生活習慣を確立させる。
- こころの健康問題の早期発見と対応に努める。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① いじめ、不登校、携帯インターネットによる誹謗・中傷など現代的課題への早期発見と早期対応につとめる。
- ② 支援の必要な生徒に対する個別の支援計画をたて、学校全体で取り組む。
- ③ 校内美化、ゴミの減量化の徹底。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 感染症や疾病に対する正しく理解させ予防につとめる。
- ② 定期健康診断での事後措置で、異常のあった生徒へは、早期受診を促し、学習へ支障のないよう指導する。
- ③ 薬物に対する理解をさせる（薬物乱用防止にも触れる）。
- ④ 基本的な生活習慣を身につけさせ、自己管理が主体的にできるようにする。
- ⑤ こころの健康問題については、問題解決に向けてスクールカウンセラーへと繋げ、担任、保護者と協力し生徒への支援を行う。
- ⑥ 今年度も定期的に「ほけんだより」を発行し、健康保持増進のための啓発を行う。

3. 本年度の自己評価結果の総括



(7)〔人権教育推進委員会〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

本校においては、基本的な生活習慣が確立した生徒が多く、授業や部活動、特別活動に積極的に参加する傾向がみられる。校内では特に目立ったトラブルはなく、生徒たちは概ね落ち着いた学校生活を送っている。一方では、帰国生選抜で入学する生徒も毎年おり、異文化理解や共生がより一層求められる現状もある。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 自らの人権を守るとともに、他の人びとの人権を認め、お互いを尊重しあえる態度を育て、将来にわたり民主的社會を構成する一員として必要な思考力と行動力を身につけさせる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 時代のニーズに即した身近な問題を取り上げるなど、生徒の実態に応じた人権教育を推進する。
- ② P T A人権委員をはじめ保護者や地域との連携を図り、さまざまな人権問題についての啓発をめざして、講演会等の研修会を実施する。
- ③ 教職員間での人権意識の向上をめざして、講演会等の研修会を実施する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

|  |
|--|
|  |
|--|

(8) [英語科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

グローバル社会で活躍する人材の育成と、一人ひとりが希望する進路の実現をめざすべく日々取り組みを行っている。英語の運用能力を高め、資格取得支援の充実と、進路実現に向けてのさらなるきめ細やかな指導が必要である。また、大学入学共通テストへの移行や学習指導要領の改訂を考慮し、生徒たちが必要とされる学力を効果的に習得できるよう、カリキュラム、授業案、教材等を研究し、実践する必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 進学先や検定合格結果から、卒業までに基礎・基本のみならず発展段階まで学力が定着したと認められる生徒の割合を、前年度の水準より増やす。
- 豊かな語学力を身につけ、海外に日本の文化を発信するとともに、外国の文化を理解、尊重し、グローバル社会で活躍できる人材を育てる。
- 英語でのプレゼンテーションやスピーチ、エッセイライティングなど英語の運用能力を総合的に向上させ、英語表現能力を強化する

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- グローバル社会・情報社会時代に生きる、明るくたくましい人材の育成をめざし、国際交流に積極的に参加する生徒の割合を、前年度の水準より増やす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 効果的な授業案や指導により、英語の運用能力を身につけさせ、英語検定の合格率を、前年度の水準より上げる。
- ② 生徒の希望を実現できる進路指導やガイダンスを、前年度と同じ回数行う。
- ③ 組織的な補習体制を組み、生徒の進路実現を支援するため、週1回以上の補習をする。
- ④ 日本本文化を発信し、異文化を正しく理解する機会（教材、プレゼンテーション）を増やす。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 授業などで国際理解の大切さを理解させ、姉妹校への語学研修やホームステイ申込者数を、前年度の水準より増やす。
- ② 英語をより実践的に使えることをめざす教育を充実させ、訪問団との交流の参加者数を、前年度の水準より増やす。
- ③ 英語を使って発信することの意義を学ばせ、スピーチコンテストなどへの参加者数を、前年度の水準より増やす。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(9)〔流通経済科〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 生徒の検定取得意識は高く、多種の検定に挑戦している。そのため自分の進路に必要な種類の検定受験に注力できていない者も出てきている。
- 流通経済科の目標・進路・活動内容が中学校側に伝わるよう、学科のPR活動が必要である。
- 現状に満足してしまい、今の力で入れる進路先に安易に進学・就職を決めてしまいがちである。目的意識の高揚が必要である。
- ほとんどの入試で課される面接において、部活動・検定以外にも自らアピールすることができる自己表現能力を身につけさせる必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 1年生から、流通経済科の進路先、必要な学習・検定を生徒自身が理解し、注力できるようにする。特にアドミッションポリシーに掲げる「世界のあらゆるビジネスシーン」で活躍する力の基礎として、簿記・英語検定の合格率をあげる。また、それらの資格をいかした進学・就職率をあげていく。
- ② 多くの新入生が入学時に科についての知識を持っているようにする。中学校の進路担当者に流通経済科を理解してもらい、他の商業高校との違いを明確にし、本校のビジネス教育の意義を感じてもらい、本科受験生を減らさない。科のミスマッチを減らし、1年生から卒業後の進路意識をもった生徒を増やす。
- ③ 学年と連携して各学年に応じた、科による進路ガイダンス（連携授業、就職講話、適性検査など）を継続して行う。その結果として、3年次に毎年30名以上が専門学科推薦や学科の特色を生かしたAO入試で進学に挑戦するように指導する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① コンテストや発表、勉強会、販売実習、社会体験など校外での活動をする生徒数やその機会を増やす。各学年20名以上。  
「ビジネスマナー」や「マーケティング」、「広告と販売促進」などの科目を通して、自主的に課題を見つけ、イベントや販売実習などの企画・実施・総括までを行う。アクティブラーニングを多種多様に取り入れ、実際に地域や企業などの協力を得て活動し、科の取り組みについて地域や中学校での認知度を高める。3年次に学科全体で取り組む。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 科内で昨年度作成した学習ロードマップに基づいた指導の徹底。簿記・英語検定合格率の向上。英語科（全商英検）との連携。
- ② 訪問中学校を選定して、流通経済科の教員は流通経済科入学生が多い学校へ訪問して、詳しい科の説明を行う。また、他科の先生方が流通経済科について、十分説明できるようにする。（科資料の充実・科活動内容の共有）出前授業を複数回行う。学校説明会の内容をブラッシュアップする。
- ② 各学年の流通経済科教員が、科のガイダンスを2か月に1回のペースで実施をめざす。必要検定補習、英語、小論文の学習指導体制を紹介できるようにする。今年度、学科の特色を生かしたAO入試や専門学科推薦での進学者15名を目標。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 校外活動への参加生徒、提供する機会を増やす。（見学会・講演会・実習・コンテスト・発表・インターンシップ・高大連携企画 参加者各学年10名以上）  
「ビジネスマナー」や「マーケティング」などの科目を通して、自主的に課題を見つけ、イベントや販売実習などの企画・実施・総括までを行う。アクティブラーニングを多種多様に取り入れ、実際に地域や企業などの協力を得て活動し、科の取り組みについて地域や中学校での認知度を高める。3年次に学科全体で取り組む。

3.本年度の自己評価結果の総括

|  |
|--|
|  |
|--|

(10) [情報科学科]

1.学校運営の中期目標

現状と課題

体験入学等により情報科学科の授業内容に魅力を感じ入学を希望する生徒が増加し、新入学生の基礎学力も向上してきている。カリキュラムや授業案、授業で使用するソフトウェアを見直し、生徒の興味関心や学力に合った授業を実践する必要がある。

国立大学を含め、大学の入試選抜方法は多様化している。その各種の入試制度に対応するため、きめ細かな進路指導や国家試験等の上位資格取得者の増加を目指す必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 専門学科の学力向上と進路実現の一環として、実習内容の充実で興味・関心を深め、資格取得の指導を集中的に行い、情報関連の資格取得者数を増加させる。
- 卒業後の進路について、将来の職業やそれにつながる進学先などの具体的なイメージを持たせ、各自の希望進路に応じた個別指導を行う。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 情報化社会におけるモラルを徹底し、ネットワークや機器の健全な活用能力を育成する。
- 課題研究、アクティブラーニングなど探求的な学習における情報教育が担う役割を理解させ活用できるようにする。
- 専門教科において、道徳教育・キャリア教育を意識した実践を行う。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 授業内容を見直し、プロが実際に使用し大学や専門学校でも導入しているソフトウェアを授業に取り入れ、生徒の興味関心を高めるとともに、専門的な技術を向上させる。
- ② 情報技術検定試験1級、ITパスポート、基本情報技術者などの上位資格について早い段階から挑戦する姿勢を身につけさせ、ITパスポートの合格者数の維持、その他の資格の合格者数を増やす。
- ③ 多様化する進路実現の方法を踏まえ、進路ガイダンスやディスカッションを通して具体的な進路の意識を高めさせる。また、各生徒の事情・希望に応じた指導を継続し、生徒の希望進路を実現させる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 授業や実習を通じて、ネットワーク時代の情報管理と取扱いのモラルについて意識させる。
- ② ネットワーク通信の仕組みを理解することにより、安全かつ合法的な利用方法を習得させ、自己理解、他者理解を通じて道徳心の育成を図る。

3.本年度の自己評価結果の総括

|  |
|--|
|  |
|--|

(11)〔国語科〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

多くの生徒が基本的な国語力を有してはいるが、国語を的確に理解し、適切かつ効果的に表現する能力を向上させる必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】  
基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 漢字や語彙の学習により、基礎的な力の向上をめざす。
- ② 読解力と共に論理的思考力・表現力を身につけ、ものの見方・考え方を深める。
- ③ さまざまな作品・文章に触れることで、想像力を養い言語感覚を磨いていく。
- ④ 生徒の状況に応じて、補習を実施する。

3.本年度の自己評価結果の総括

|  |
|--|
|  |
|--|

(12)〔地歴公民科〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

地歴公民科では、我が国の社会の一員として生きるための必要最低限の知識の習得に加えて、これからの社会において主体的に行動し、より良い社会を作り上げる人間を育てる必要がある。また、本校における進路の多様性を踏まえて、大学の受験に対応したカリキュラムを構成することが求められている。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】  
○ 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 各必修科目において、高校での地歴公民学習への導入と動機づけを行う。
- ② 1年の「現代社会」の授業において、社会の出来事への関心を高め、現代社会の基本的な問題についての理解を深めさせる。
- ③ 2年の「世界史A」の授業において、世界の近現代の歴史を我が国の歴史との相関を踏まえながら、現代社会の諸問題の原因等に注目して考察させる。
- ④ 3年の「日本史A」の授業において、我が国の近現代の歴史を世界の歴史と関連づけながら、現代社会の諸問題に注目して考察させる。

演習等の選択科目の授業において、「地歴公民科」を大学入試の受験科目とする3年生を対象として、放課後や夏季休業中を利用して、補習を実施する。

3.本年度の自己評価結果の総括

|  |
|--|
|  |
|--|

(13) [数学科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の生徒には数学に逃げて意識を持っている生徒や、数学嫌いの生徒が相当数見受けられる。彼らの苦手意識を少しでも和らげ、数学的(科学的)思考法を身につけさせる。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 新指導要領のもとで生徒の理解度を把握し、教材・授業内容を精選する。
- 生徒が興味を持って学習に取り組めるよう、話題や教材を工夫する。
- 自宅学習の習慣をつけさせ、自宅学習時間を増やす取り組みをする。
- 個別またはグループ別に補習を行い、数学の単位不修得の生徒数を最小にする。
- 受験(センター試験を含む)などにおいて、数学を必要とする生徒に対して補習を行う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 机間指導や小テスト等で生徒の理解度を把握し、授業内容に反映する。
- ② 学習の動機づけとなる話題や教材を生徒に提示する。
- ③ 復習を習慣づけるため、できるだけ頻繁に課題を与える。また問題集を有効に利用し、定期的または長期休業後に提出させ、自主学習の習慣をつけさせる。
- ④ 理解度・進路希望等を考慮し、放課後や長期休業中に補習等を行う。
- ⑤ 看護・医療系志望の生徒に対して、年間を通じて目的を達成する時期まで補習を行う。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(14) [理科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 入学以前の理科の知識に大きな差があり、理数に苦手意識をもつ、基礎知識の乏しい生徒が少なくない。よって、科学的な時事問題にも興味を持ちにくいのが現状である。
- 3科とも専門学科であるため、理科の単位数が普通科高校より少なくなり、あらゆる進学先に対応しているとは言い難い。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 効率的な学習を設定するために、基礎学力の定着と発展を図る。
- グローバルな視点から、科学的な問題にも関心をつなげる授業を展開する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 小テスト・宿題を実施し、基礎事項の理解・定着を図る。
- ② 実験・観察などで、安全に対する意識徹底教育と共に、基礎事項の理解を深める。
- ③ 放課後・昼休み・長期休業中を利用した補習を行い、進学希望者に対しては大学入試レベルの実力を、理解が不十分生徒には基礎学力をつけさせる。
- ④ ④視聴覚教材を活用し、環境問題、感染症、エネルギー問題等の時事問題にも、発展的学習として取り組む。

3. 本年度の自己評価結果の総括

**(15) [保健体育科]**

**1. 学校運営の中期目標**

**現状と課題**

多くの生徒が健康で充実した学校生活を送っているが、運動・健康に対する知識不足が課題である。

**中期目標**

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 保健の知識・体育理論などを身につけさせ、日常生活に役立たせる。
- 生涯を通じて心と体の健康を保つことができるよう、知識・技能を身につけさせる。
- 生涯を通じて健康的な生活を送れるよう、体力の向上をめざす。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

集団行動・各種競技を通じて、規範意識と協調性を養わせ、将来に役立たせる。

**2. 中期目標の達成に向けた年度目標**

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 保健の知識を身につけさせる。
- ② 体育理論を身につけさせる。
- ③ ストレッチの重要性を理解させる。
- ④ 基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ⑤ 基礎体力を身につけさせる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 体育の授業の中で、集団でさまざまな学習をし、規範意識・協調性を身につけさせる。人間関係の基本は挨拶である。授業の始まりと終わりの挨拶を徹底させる。

**3. 本年度の自己評価結果の総括**

|  |
|--|
|  |
|--|

**(16) [家庭科]**

**1. 学校運営の中期目標**

**現状と課題**

生活する力を身につけるために、基礎的な知識のほか、生徒が主体的に実践することが必要である。

**中期目標**

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 各分野において、基礎的な知識・技能を習得し、それらを実生活と照らし合わせながら、学習への理解を深める。
- 実践的・体験的な学習を通して、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

**2. 中期目標の達成に向けた年度目標**

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 生徒が関心を持って取り組めるような題材を取り上げ、家庭生活に応用できる力を身に付けさせる
- ② 実験・実習は、生徒が主体的に取り組むことができるよう内容を工夫する。
- ③ 家庭生活中で生かす実践力の重要性を理解させる。

**3. 本年度の自己評価結果の総括**

|  |
|--|
|  |
|--|

(17)〔芸術科〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

書道

○中学校ではほとんど授業がないのが現状であり、「お習字」段階から芸術にまで高めなければならない。そこで、生徒の意識を高め、技術指導をする必要性がある。

美術

○授業数が少なくなり、道具の使い方や自分を表現する仕方が定着せず苦手意識を持つ生徒が増えている。興味関心意欲を高めるためには、その苦手意識を取り除くための指導が必要である。

音楽

○漠然と授業に参加するという現状から、音楽を楽しむという姿勢を持ち意欲的に合唱合奏に参加し、音楽的技術を向上するための指導が必要である。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

書道

- 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。
- 完成を高め、漢字・仮名・感じかな交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。

美術

- 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。
- 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。

音楽

- 音楽に主体的・意欲的に取り組める生徒を増やす。
- 音楽を通して自らの根底に流れている精神を発見し、自らを見つめなす機会を与える。
- 音楽を通して内面的な成長を遂げられるようにする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

書道

- ① 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。
- ② 完成度を高め、漢字、仮名、漢字仮名交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。

美術

- ① 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。
- ② 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。

音楽

- ① 音楽に関心を持ち、どのようなジャンルでも意欲的に取り組める生徒を増やす。
- ② 音楽の基礎を身につけて、読譜力、ソルフェージュ力を増やす。  
合唱作品に取り組み、自然に協調性を身につける。

3. 本年度の自己評価結果の総括



(18) [1 学年担任団]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

普通科志向の強い中で3つの異なる専門学科がある本校へ入学してきた1年生に対して、互いに他者を認め合い、自らの能力・個性・長所をのぼし、将来の進路を自発的に決定することができるように指導・支援を行う。入試制度の改変により第2志望での入学生も多く、3学科の有機的な連携のもと、自らの所属学科での能力・個性・長所をのぼす指導の工夫が課題である。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 基礎的な知識・技能の習得とともに、専門的な学力の向上をめざす。自ら考え判断し、表現する力を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 基本的な生活習慣を身につけ、自主的に行動することができる人材の育成をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 朝学習の時間を活用して基礎学力の定着を図る。また、毎日の家庭学習を1時間以上自主的にこなう習慣を身につけさせる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 高校生としての「マナー」をしっかり身につけ、自発的に「ルール」「時間」「約束」を守ることができる人間形成を行う。
- ② 特別活動を通して自己理解や他者理解を深め、リーダーシップや協調性、自主性を身につけさせる。

保護者や関係部署および地域社会との連携を密にして、問題行動の把握と未然防止にしっかり取り組む。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(19)〔2学年担任団〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

1年生における3学科混成のミックスホームルームクラスを経て、互いに他者を認め合い自らの能力・個性・長所を伸ばすことが概ねできている。今後は3学科が連携を取りながら専門学科としての特徴ある能力をさらに伸ばし、自己実現ができるよう支援を行う。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】  
基礎的な知識・技能の習得とともに、専門的な学力向上をめざす。自ら考えて判断し、行動・表現できる力を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】  
基本的な生活習慣を身につけ、自主的に社会に貢献する人材の育成をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・朝学習を継続し、基礎学力の定着をさらに深めるとともに、より専門的で高度な学力の向上をめざす。自主的に1日最低1時間の家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。
- ・受動的な学習を基にしながら、自主的に能動的な学習をする姿勢を育成し、自ら進路を見出す姿勢につなげさせる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・高校生としての「マナー」をしっかり身につけ、自発的に「ルール」「時間」「約束」を守ることができる人間形成を行う。欠席・遅刻を減らせるよう自己管理を徹底させる。
- ・学校行事・部活動など、特別活動へ積極的に参加し、上級生としてふさわしい集団行動での自主性や協調性、リーダーシップを身につけさせる。
- ・日頃から保護者や地域社会および関係部署との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに問題発生時には、状況の把握、迅速な対応、円滑な解決に努める。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(20)〔3学年担任団〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

これまでに培った基礎的な知識・技能を前提とし、より高度な知識・技能を身につけさせるとともに、専門学科としての特徴ある能力をさらに高め、自己実現ができるよう支援する。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ これまでに培った基礎的な知識・技能を前提とし、より高度な知識・技能を身につけ、専門学科としての特徴ある能力をさらに高め、自己実現ができるよう支援する。  
また、自ら考えて判断し、行動・表現できる力を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ 豊かな人間性を育み、社会を構成する一員であるということを自覚させ、社会に役立つ能力と主体性を持つ人格の形成を目指す。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 朝学習を継続し、基礎学力の定着を図る。より専門的で高度な学力の向上をめざす。自己実現に向け自主的に最低1時間家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。
- ② 自己実現に向け、自ら進んで能動的な学習をする姿勢を育成し、最終学年に備えさせる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 自主的で良好な基本的な生活習慣の確立をめざす。
- ② ホームルームや学校行事等の日常生活を通じてルールやマナーを守り、社会性を身につけた人格を育成するよう指導していく。
- ③ 様々な活動を通して、最高学年としてふさわしい集団行動での自主性やリーダーシップを身につけさせる。
- ④ 保護者や関連各部署及び地域社会との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時の迅速な対応と円滑な解決に努める。

3. 本年度の自己評価結果の総括